

令和 6 年度

「いわての復興教育」

実践事例集



令和 7 年 3 月
岩手県教育委員会

学校安全総合支援事業「いわての復興教育スクール〈内陸〉」実践事例

学校名：岩手県立伊保内高等学校

I 事業の概要（地域の実情含む）

北上山系の最北端、岩手県の北部に位置する九戸村は、人口約5,500人、面積は134平方キロ、面積の70%以上が山林原野で占められ、自然豊かな村である。

【地域の課題】

- ・九戸村で想定される洪水・浸水・土砂災害の危険性や災害時に身を守るための準備についての学習を推進する。

【全域に推進体制を構築するための取組】

- ・高校を中心として、防災についての啓発活動を行う。

【拠点校を設定した理由】

- ・防災に対する意識を高め、地域防災について共通認識を図る連携モデルを構築するため。

【モデル地域で取り組む内容、拠点校で取り組む内容】

○モデル地域での取組

- ・各校の取組を共有することで、取組の充実を図り、防災体制の構築を目指す。

○拠点校の取組

- ・総合的な探究の時間での防災をテーマにした探究学習や被災地での防災学習をして、安全で安心なまちづくりに貢献する意識を高める。

【モデル地域全域への普及方法】

- ・文化祭の開催を各校に案内し、児童生徒や地域の方等に学習成果を発表する機会を設定する。

【各学校の中核教員の役割】

- ・児童・生徒の防災に対する意識を高めるため、防災を日々の教育活動と結び付けられるようにする。

【拠点校と他の学校との連携】

- ・中核となる教員を中心に異校種及び地域、関係機関等と連携した防災推進体制の構築を目指す。

II 取組の概要

1 岩手県立図書館での復興・防災学習

（総合的な探究の時間での「防災」をテーマにした探究学習）

5月、岩手県立図書館のI-ルームを活用し、復興や防災について学習した。各自が小テーマを設定し、「自然」、「健康」、「情報」のいずれかの観点から情報の収集・整理・発表を行った。この学習を通して、防災についての意識を高めるとともに、地域で役立つ方法を考えるようになった。



I-ルームでの学習



成果発表会

2 地域清掃（地域の危険箇所を把握）

学年ごとに清掃場所を分担し、ゴミ回収だけでなく災害時の危険箇所も確認した。学校近くに土砂崩れの危険のある箇所、通学路には過去に氾濫した川があることを知った。この活動を通して、日常生活における災害に対する備えの重要性を認識した。

3 避難訓練

6月19日、二戸消防署九戸分署と連携し避難訓練を実施した。避難訓練後、煙が充満した教室を移動する体験をした。体験を通して、避難時の行動には意味があることを再認識した。また、緊急時における自主防災の役割を確認し、訓練に臨む意識の重要性を認識した。



避難訓練



4 宮古市田老地区での復興・防災学習

(総合的な探究の時間での「防災」をテーマにした探究学習)

(1) 体験学習「学ぶ防災ガイド」による防災学習

7月8日、宮古市田老地区で復興・防災学習を行った。津波被害の歴史や地区の復興への取組や防災対策について学んだ。現地での学習を踏まえてテーマを設定し、探究学習を行った。その成果をポスターで発表することで、復興・防災についての関心を深めた。



「学ぶ防災ガイド」



ポスターセッション

(2) 文化祭でのポスター展示発表

10月5日の文化祭で、学習成果をまとめたポスターを展示した。探究したテーマには「田老町の経済と復興」や「防波堤の物理学的実験」など多様なものがあり、来場者が復興や防災について様々な視点で考えるきっかけとなった。



文化祭
(左:ポスター 右:実験道具)

5 防災の日(副読本の活用、非常食給食の実施)

11月27日、朝学習では「いきる」「かかわる」「そなえる」について、副読本を活用して学んだ。また、給食では非常食給食(カンパン、常温で食べられるレトルトのシチュー、みかん)を食べた。これに加えて3学年は「フードデザイン」で防災食として、ポリ袋を使って米を炊き、豚汁を作った。温

かい食事の重要性と生活のありがたさを実感するとともに、非常食の必要性についても考えることができた。

乾パンや缶詰は、災害時に使いたくはない。給食と食べる時はおいしいとは思えない。実際に災害時には非常食を食べる必要を感じた。

生徒の感想

6 地域子ども読書会での復興教育絵本の読み聞かせ

本校は、毎年冬休みに小学生に読み聞かせをし、読書の楽しさを伝える活動を行っている。この活動は今年度で45回を数えるもので、昨年度文部科学大臣賞を受賞した。今年1月9日の読書会では、例年の民話をもとにした紙芝居や宮沢賢治作品の朗読に加え、復興教育絵本の読み聞かせを行った。その際、防災ボトルの説明をするとともにそれをプレゼントすることで、小学生の防災意識を高めるよう努めた。



地域子ども読書会と防災ボトル

7 「いわての復興教育」児童生徒実践発表会の参加

1月30日、実践発表会及びパネルディスカッションに2名が参加した。各校の実践を知るとともに、本校の実践や自らの考えを発表することで、復興・防災についての意識を高めたり、考えを深めたりすることができた。

III 取組の成果と課題

1 成果

- (1) 探究学習や体験学習を通して、復興・防災について関心や理解を深めるとともに、地域社会に貢献しようとする意識を高めることができた。
- (2) 校外清掃や避難訓練を通して、地域の安全に対する意識や災害時の対応力を高めることができた。また、積極的に防災活動に取り組む姿勢を育むことができた。

2 課題

異校種及び地域、関係機関等と連携した防災推進体制の構築には至らなかった。